

令和5年度 第2回熊本・上益城地域保健医療推進協議会 御意見及び回答

項目	内容	発言者	御意見	回答内容・今後の対応等	担当課	
(1)第8次熊本県保健医療計画(熊本・上益城圏域編)素案について						
1	圏域の現状	【1ページ】 (1)人口構造の変化の見直し	坂田委員 (県薬剤師会上益城支部・上益城)	・2、圏域の現状(1)人口構造の変化の見直し において、 (熊本地域)では2050年には33.4%、(上益城地域)では2045年には39.8%となっていますが、同じ2050年の数字ではダメなんでしょうか？それだけ、上益城地域の進行が速いということの強調でしょうか？ (他の圏域でもバラバラになるのでしょうか？)	ご意見をいただき、地域医療構想は2040年の医療提供体制の展望を見据えたものとなっていることから、熊本地域と上益城地域は2040年に統一をしました。他の圏域も概ね2040年で記載されています。	医療政策課
2	圏域の現状	【2ページ】 (5)医療施設の状況、 (6)病床数	坂田委員 (県薬剤師会上益城支部・上益城)	・医療施設の状況、病床数の表の読み取り方が分かりませんでした。現状提示ということだと思いますが、目標に対して過剰なのか、不足なのか、その辺りが分かりづらいと思いました。	この部分については、県全体で統一の記載様式として決められており、医療施設の現状を記載しています。	医療政策課
3	圏域の課題と取組の方向性	【4ページ】 (1)医療機能の適切な分化と連携	坂田委員 (県薬剤師会上益城支部・上益城)	・3、(1)[取り組みの方向性]の中で、 ”くまもとメディカルネットワークの普及啓発を行い”とありますが、現在の普及率はどれくらいでしょうか？(病院、薬局など)	くまもとメディカルネットワーク参加施設数は、令和5年9月末時点で、病院128施設(約63%)、診療所214施設(約20%)、薬局91施設(約10%)です。 情報提供の中心となる中核病院(救急・在宅医療支援等病院)はすべて登録をしている状況ですが、切れ目ない病診連携の強化や質の高い医療に向け、特に医科診療所の加入促進が必要です。	御船保健所
4	圏域の課題と取組の方向性	【11ページ】 (7)健康危機管理に関する体制	坂田委員 (県薬剤師会上益城支部・上益城)	・(7)健康危機管理に関する体制[現状と課題]の中で、 ”外部からの応援要員についても要請の仕組みはあったものの円滑に機能しなかったため”とありますが、どんな仕組みだったのでしょうか？ なぜ機能しなかったのでしょうか？	応援要員の要請の仕組みとして「HEAT(アイヒート)」があります。感染症のまん延等の健康危機が発生した場合に、地域の保健師等の専門職が保健所等の業務を支援するという仕組みで、医師、保健師、看護師のほか、歯科医師、薬剤師、助産師、管理栄養士などが、保健所等への支援を行うHEAT要員として登録されています。 今般のパンデミックの際、応援要請を行ったものの、登録者の所属機関(医療機関や介護施設等)の繁忙等により、出勤可能な要員がおらず、新たに登録者を募るなど、調整に時間を要しました。	医療政策課 感染症対策課 新型コロナウイルス感染症対策課
5	圏域の課題と取組の方向性	【13ページ】 (2)へき地医療	坂田委員 (県薬剤師会上益城支部・上益城)	・(上益城地域)(2)へき地医療[現状と課題]の中で、 ”慢性的な医師や医療スタッフの不足など”とありますが、どんな施策の実施においても「マンパワー不足」が一番の課題になってくると思われま す。 人材確保(医師、看護師、薬剤師、保健師、介護者など)をどう進めていきますか？熊本県ドクターバンク以外に、何かシステムはありますか？潜在的な人員を見つけ出し、登録し、再教育し、実戦で働いて貰えるためのシステムづくりを考えていく必要があると思います。 県が主体になるのか、各自治体が主になるのか、研修場所、期間、費用なども問題になってくると思います。	人材確保に向けて、地域の実情や要望を踏まえ、引き続き各職能団体と連携しながら、潜在的な人材の復職支援等の取組を進めていく必要があります。そのために、保健所として、庁内関係部署等に地域の実情や要望等を伝えていきたいと考えております。	御船保健所

令和5年度 第2回熊本・上益城地域保健医療推進協議会 御意見及び回答

項目	内容	発言者	御意見	回答内容・今後の対応等	担当課	
(2)第8次熊本・上益城地域保健医療計画(別冊編)素案について						
1	1 熊本・上益城地域の保健医療に関する概要	【4ページ】 (1)人口構造と今後の見通し	坂田委員 (県薬剤師会上益城支部・上益城)	・〈熊本市地域〉では2050年には33.4%、〈上益城地域〉では2045年には39.8%となっていますが、同じ2050年の数字ではダメなのでしょうか？それだけ、上益城地域の進捗が速いということの強調でしょうか？(他の圏域でもバラバラになるのでしょうか？)	(1)-1に記載	—
2	2 熊本・上益城地域の保健医療に関する概要	【5ページ】 (1)熊本・上益城地域 医療施設情報(2)熊本・上益城地域 病床数	坂田委員 (県薬剤師会上益城支部・上益城)	・医療施設の状況、病床数の表の読み取り方が分かりませんでした。現状提示ということだと思いますが、目標に対して過剰なのか、不足なのか、その辺りが分かりづらいと思いました。	第8次熊本県保健医療計画(熊本・上益城圏域編)と同じ様式を使用していますが、分かりづらいというご意見を受け、説明を追加する等対応を検討します。	医療政策課
3	第1節第1項より良い生活習慣の形成、生活習慣の改善	【10ページ】 具体的な取組(1)健康的な食生活の推進	坂田委員 (県薬剤師会上益城支部・上益城)	・具体的な取組み(1)健康的な食生活の推進 の中で、”食生活改善推進員の養成とその活動支援”とありますが、現在の推進員さんはどれくらいおられますか？養成の目標人員はどれくらいですか？	熊本市では、令和5年11月末日現在492名の食生活改善推進員が活動されています。養成の目標人数は、令和6年度からの第4次食の安全安心・食育推進計画において、令和17年度の会員数を600名として養成を行う予定としています。	健康づくり推進課
4	第1節第2項生活習慣病の早期発見・対策	【14ページ】 〈熊本市の現状〉	坂田委員 (県薬剤師会上益城支部・上益城)	・”令和3年度の本市国民健康保険加入者の特定健診実施率は28.8%と低く”とありますが、社会保険等加入者の健診受診率はわかるのでしょうか？国民健康保険加入者と社会保険等加入者の割合はどうなっていますか？どちらも見ていく必要があるのではないのでしょうか？	特定健康診査健診は、各保険者で実施されることから、NDBにて保険者ごとの健診受診率は公表されていますが、社会保険加入者においては、被保険者を住所によって管理されていないため、熊本市に住む社会保険加入者の健診受診率を算出することはできない状況です。(別紙参照)	国保年金課
5	第3節第1項健康危機管理に関する体制	【49ページ】 課題	坂田委員 (県薬剤師会上益城支部・上益城)	・”外部からの応援要員についても要請の仕組みはあったものの円滑に機能しなかったため”とありますが、どんな仕組みだったのでしょうか？なぜ機能しなかったのでしょうか？	(1)-4に記載	—
6	第2節第2項特定の課題に応じた保健医療施策の推進	【65ページ】 現状と課題	坂田委員 (県薬剤師会上益城支部・上益城)	・”慢性的な医師や医療スタッフの不足など”とありますが、どんな施策の実施においても「マンパワー不足」が一番の課題になってくると思われまます。人材確保(医師、看護師、薬剤師、保健師、介護者など)をどう進めていきますか？熊本県ドクターバンク以外に、何かシステムはありますか？潜在的な人員を見つけて出し、登録し、再教育し、実戦で働いて貰えるためのシステムづくりを考えていく必要があると思います。県が主体になるのか、各自治体が主になるのか、研修場所、期間、費用なども問題になってくると思います。	(1)-5に記載	—
協議会におけるご質問等への回答						
1	第8次熊本県保健医療計画 評価指標	【68ページ】 第8次熊本県保健医療計画 評価指標	堀田委員 (熊本市PTA協議会)	子どもの飲酒・喫煙のアンケート結果に驚いた。これは熊本市で実施しているものなのか。また、こういった調査結果やその他の情報を学校や保護者に情報提供しているか。	国の参考値であり、本市の状況を聴取しているわけではなく、令和3年度厚生労働科学研究「喫煙・飲酒等生活習慣の実態把握および生活習慣の改善に向けた研究」の調査結果より算出されたものです。 学校等への情報提供については、毎年実施している、教員を対象とした「飲酒・薬物乱用防止教育研修会」や、生徒を対象とした「薬物乱用教室」にて適宜行っています。	健康づくり推進課 健康教育課